

学校・家庭・地域の協働をめざした学校安全の推進

防府市立佐波中学校 PTA

1 学校地域の概要

PTA会長：新田 直 正

学 校 長：松 岡 孝 彦

生 徒 数：339名

会 員 数：306名

所 在 地：〒747-0031

防府市迫戸町16番37号

TEL：0835-22-0233

E-mail：saba-j@c-able.ne.jp



(1) 校区の特色

本校は防府市の中心地に位置している。校区の大部分は市街地である。市の中心的な商店街・飲食店街を含んでおり、社会環境が生徒に与える影響も多い。校区の北部や西部には田園地帯もあるが、農業に従事している保護者は少ない。「防府天満宮のお膝元」といわれる地域であるが、保護者、地域社会とともに、新旧入り混じった価値観の多様化が見られる。

地域は教育熱心であり、PTAはもとより地域ぐるみで青少年健全育成に取り組んでいる。生徒も地域の中の存在であるという自覚をもち、地域行事に積極的に参加している。

(2) 生徒のようす

本校は普通学級が各学年4学級、特別支援学級が2学級（知的、情緒）で14学級である。通級指導教室も開設され、市内の他校から通級する生徒がいる。生徒数は339名の中規模の学校である。明るく元気な生徒が多く、運動会や文化祭、校内駅伝大会などの学校行事には本気に取り組む。生徒会によるボランティア活動が年々盛んになっており、地域から良い評判が聞かれる。反面、粗野な言動があり、一部の生徒に規範意識が不足している。不登校生徒の割合も高く、生徒指導上の課題は多い。

(3) 学校の目標

① 校 訓 「至誠」「力行」

② 学校教育目標

「人間性豊かで時代の変革に対応できる、心身ともにたくましい生徒を育成する」

③ めざす学校像

* 楽しい学校

生徒一人ひとりが大切にされ、学習内容が理解でき、校友関係が充実している学校

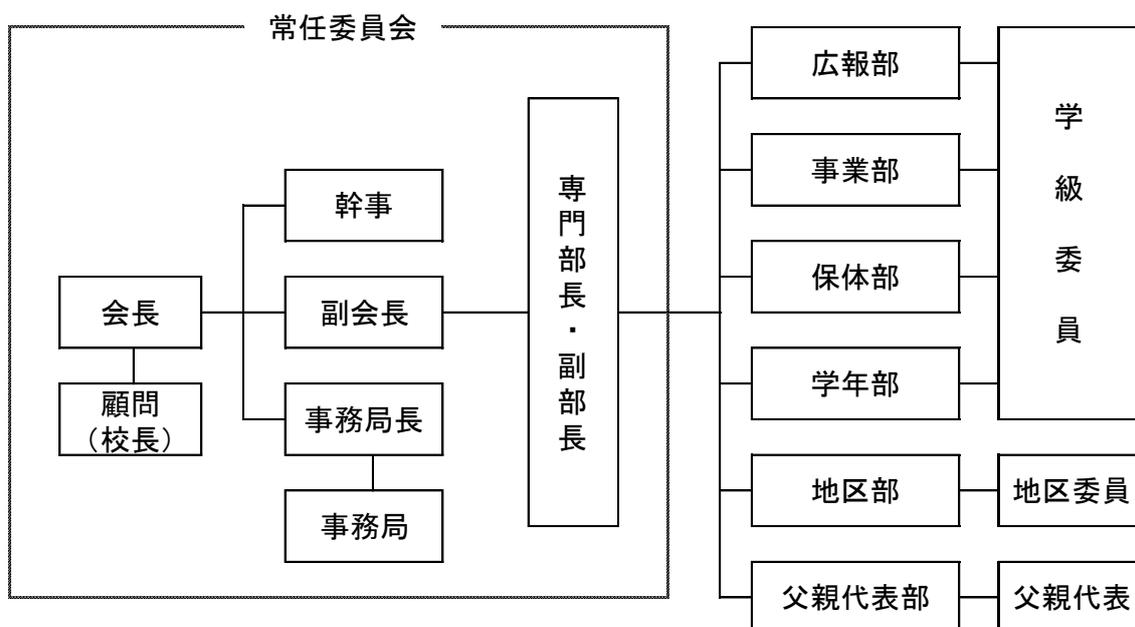
* 美しい学校

美しい生活環境が整い、生徒が互いに洗練された品格のある言葉を交わし合う学校

* 静かな学校

生徒の言動に落ち着きがあり、毅然とした態度で生活している学校

2 PTAの組織図



3 研究主題について

学校・家庭・地域の協働をめざした学校安全の推進

昨年3月11日に発生した東日本大震災は日本の歴史に残る未曾有の大惨事で、多くの犠牲者が出た。防府市内でも3年前に記録的な集中豪雨を経験し、自然災害の恐さを十分に受け止めたところである。

本校PTAは、これまで学校の安全教育において、生活安全や交通安全に関するものは協力していたが、自分の身を守る観点からの災害安全や防災に関する理解と協力は今一步の状況であった。生徒の生命を守り、安全で安心な生活を送るためには、学校と家庭、地域との連携が重要な要素である。そして、生徒の生活を脅かす危険を少なくするため、未然の防止や、緊急時の対応等について組織体制を確認しておく必要がある。そのためには、まず保護者の意識を向上させていくことが重要と考えた。

そこで、今回の研究指定をきっかけに、学校の安全教育および危機管理体制を見直し、積極的に家庭・地域と協力していくための具体的な方策を検証し、その効果を明らかにしようと考えた。

【学校安全に関するPTA年間活動計画】

- *生活安全・・・挨拶運動（毎月）、防犯避難訓練（6月）、地区別懇談会分科会（7月）、夜間巡回（7～8月）、緊急連絡メール（随時）
- *交通安全・・・地区懇談会分科会（7月）
- *災害安全・・・地区懇談会全体会（7月）、防災避難訓練（11月）

4 活動内容

(1) 挨拶運動

① 目的

日常生活の基本である挨拶を通して、生徒とのコミュニケーションを図るとともに挨拶の励行を促し、通学の様子を知る。

② 実施方法

- ・毎月1回（第3水曜）
- ・時間……7：45～8：00
- ・場所……校門（東門・西門）

③ 成果

今年度から始めた取組であり、参加者は常任委員に限られたが、生徒の状況を把握することができた。（参加延人数50名）

研究指定の助成金で参加者用のスタッフジャンパーを購入し、活動の姿がわかるよう工夫した。



(2) 夏季休業中の夜間巡回

① 目的

生徒が安全・安心で健全な生活を送られるよう、事件・事故や問題行動等を未然に防止する。

② 実施方法

ア 回数

夏季休業中 10回

イ 時間 3パターン

水曜日……19：00～20：00

木曜日……20：00～21：00

金曜日……21：00～22：00

ウ 見回り箇所

校区内や周辺地域の溜まり場になりやすい所（ゲームセンター、公園）

エ 見回り方法

- ・佐波中学校東門駐車場に集合する。
- ・保護者と教職員5人程度で1グループとし、自動車で移動する。
- ・気になる生徒がいた場合は、声かけをし、帰宅を促す。本校生徒に限らず、未成年の飲酒・喫煙等の違法行為や迷惑行為があった場合は全員で注意をする。
- ・活動終了後、記録簿に記入し、状況に応じて生徒の保護者に連絡する。

オ 参加者の募集

全保護者に呼びかけて募集する。

③ 成果

夜間巡回を始めて3年目になる。父親代表委員が中心となって活動しており。今年度は活動中に本校生徒の姿を見ることはほとんどなく、年々良い傾向になっている。参加延人数は約100名であった。

(3) 地区懇談会

① 目的

生徒の健全育成をめざして、開かれた学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域の連携の強化を図る。

② 実施日

平成23年7月2日(土) 13:30～16:30

③ 日程

13:30～14:20 公開授業
14:40～15:30 地区別懇談会
15:40～16:30 講話・全体懇談会

④ 地区別懇談会

ア 方法

校区内を8つのグループに分け、教室で実施する。

イ 運営の担当者

P T A 常任委員および各地区委員

ウ 参加者

地域の方、保護者、学校評議員、教職員

〔地域〕自治会連合会長、青少年育成連絡協議会会長、社会福祉協議会会長、
民生児童委員協議会会長、青少年指導員会長、子ども会育成連絡協議会会長、
少年相談員、防犯連絡協議会会長、交通安全協会分会長、自治会長、
民生児童委員、子ども会会長

エ 協議内容

- ・地域での生徒の様子や危険箇所について情報交換した。
- ・今年度は話し合いが能率的にできるよう、保護者や地域の方から中学生の様子や危険箇所について事前にアンケートをとり、結果を資料として活用した。
- ・地域や保護者から見た生徒のようす
良い点………挨拶がよくできるようになってきた。
気になる点………登下校中は、道幅いっぱいになって広がることが多く、交通の妨げになっている。
- ・地域の危険箇所……細い道で自動車がスピードを出す所や雨天時に急激に水量が増す川がある。
- ・教職員からは生徒の学校生活の様子を紹介した。



⑤ 講話・全体懇談会

ア 演 題 「自然災害に関する情報や防災に対する備え」

講師 牛丸 正美 様（防府市役所総務部防災危機管理課 課長）

イ 内 容

・避難方法

防府市のハザードマップが各家庭に配布してあるので、確認してほしい。日頃から家族で万が一の時の避難場所と避難経路を確認しておくことが大切である。また、危険だと思ったら、早めに避難するようにする。夜間の避難は特に危険である。

・地震への対応

防府では佐波川活断層、周防灘活断層がある。地震が起こったら、津波の可能性はある。自然を侮らないようにしたい。今年度、佐波中学校体育館の耐震工事が実施される。

⑥ 成 果

今年度の講話のテーマは「防災」であり、しかも専門家による講話であったので、保護者のみならず地域からの参加者（特に自治会長）が多かった。

講師がハザードマップを使って、校区内の危険な地域を紹介され、最新の情報を知ることができた。3年前の水害のメカニズム、市内の活断層の位置や東日本大震災級の地震が発生した場合の津波の想定、避難場所および方法や留意点の内容は説得力があった。

防災危機管理課長としての講話は冷静な判断の上に臨場感があり、好評であった。参加者からの質問も多く、例年以上に盛り上がった。



(4) 避難訓練

① 不審者対応訓練

ア 目 的

不審者が侵入した際に、生徒の安全確保、不審者への迅速な対応、警察への通報など、教職員の組織的な対応の確認と危機管理意識の高揚を図る。

イ 実施日

平成23年6月29日（水）

ウ 日 程

11:40～11:45	事前指導
11:45～11:55	避難訓練
11:55～12:30	受指導

エ 訓練の内容

不審者が本校生徒への不満をはらしに、凶器をもって侵入する。不審者に対して教職員が組織的な対応をし、生徒への的確な指示と安全な場所への避難訓練を行う。

オ 指導者

少年安全サポーター、防府警察署生活安全係長、スクールガードリーダー

カ 成果

教職員の不審者への対応と生徒の避難誘導における動きは冷静・迅速で順調であったが、個々の細かい動きには課題があった。生徒の訓練の取組もおおむね良好であった。

また、指導者からの携帯電話の使い方に関する講話とVTR視聴は、現代の青少年の生活に密着しており、効果的であった。



② 火災対応訓練

ア 目的

- ・火災発生の際に迅速かつ安全に避難する能力や態度を身につける。
- ・教職員が生徒を安全に避難誘導する能力を身につける。

イ 実施日 平成23年11月22日(火)

ウ 日程

13:10～13:20 訓練
13:20～13:35 受指導

エ 訓練の内容

昼休みに理科室から火災が発生したと想定する。生徒は校舎内に点在しており、自分で避難経路を判断し、グラウンドに緊急避難する。

オ 成果

これまでの訓練は学級担任主導のもとで避難することが多かったが、今回は昼休みに生徒が校舎各地に点在している状況で実施した。生徒は、火災発生場所を確認した上で、適した経路を考えて避難することを試みた。訓練は混乱もなく順調にできたが、火災ベルや緊急校内放送が聞き取りにくい箇所がわかり、今後、教職員が避難誘導する上で留意する点が見えてきた。

当日は消防設備の点検日でもあったので、訓練後、教職員は業者から消火器の使用方法について指導を受けた。



③ 地震対応訓練

ア 目的

- ・地震発生の際に迅速かつ安全に避難する能力や態度を身につける。
- ・教職員が生徒を安全に避難誘導する能力を身につける。

イ 実施日

平成23年11月30日（水）

ウ 日程

13:40～14:00 訓練
14:00～14:20 受指導

エ 訓練の内容

5校時に地震が発生。緊急地震速報を伝える放送で、生徒は教室の机の下に待機する。その後、指示により全校生徒が防府天満宮（春風楼前）に避難する。



オ 事前の準備

・職員の研修

9月から毎月、危機管理マニュアルに基づく対応（特に避難経路）を討議し合う。県教委作成の演習ファイルを使ってさまざまな想定における教職員の対応方法について研修した。

・専門家からの指導

市防災危機管理課の担当者と避難訓練の実施計画を相談した。その助言内容をもとに教職員で再度話し合った。

・防府警察署からの指導

避難経路を確認するとともに、訓練における道路使用許可の手続きをした。

・PTA

常任委員会で実施計画を確認、訓練への参加者や記録写真撮影者を決定した。避難後の保護者への引き渡し等についても話し合った。

・地域との連携

学校評議員や学校が所在する地域の自治会長へ実施計画を送付し、訓練実施への協力を依頼した。

・生徒への指導

学級担任が地震発生時の対応方法について事前指導した。教室にはマニュアルを掲示し、常に確認できるようにした。



カ 成 果

今年度は東日本大震災が起こった関係で自然災害に対応する避難訓練をこれまで以上に重視する意識が高かった。そこで、10mを超える津波の発生を想定し、学校外の高台（防府天満宮）へ避難するという取組を初めて試みた。実施前には時間的な不安があったが、実際には避難のための時間は予想以上に短く、順調に実施できた。教職員が避難訓練実施を示すプレート掲げなどの工夫もあり、道路を通行している自動車のドライバーにも協力していただけた。

また、訓練の状況を市の防災危機管理課長牛丸様に見ていただき、適切な評価と指導を得た。保護者や地域の方からも学校の取組への理解を得ることができた。

(5) P T A 教育講演会

① 目 的

- ・思春期の子育てについて悩みや不安をもつ保護者が講演を聞くことをとおして、問題の対処法や子どもとのよりよい接し方について学ぶ機会とする。
- ・生命の誕生のしくみやいのちの大切さについて学ぶことをとおして、生徒の自尊感情を育むとともに、家族の絆を深める。

② 実施日

平成23年11月20日（日）14:20～15:20

③ 演 題

「いのち ～生命誕生といのちの大切さ～」

講師 悦喜 桂子 様（JA広島総合病院看護科長、助産師）

④ 内 容

- ・生命の誕生
- ・妊娠のしくみ
- ・出産、誕生のしくみ
- ・誕生後の成長
- ・性感染症とモラル
- ・いのちの大切さ

⑤ 参加者

生徒 330名 教職員 27名
地域の方及び保護者 約70名

⑥ 成 果

昨年度、保護者の学校評価において、親子で聞く性教育の講演会を実施してほしいという希望があり、検討した結果、実現に至った。

講師は、上記の内容をプレゼンテーションソフトによる映像と実物模型を使って説明された。現役の助産師であり、講演も数多くされているので、ていねいな口調でわかりやすいものであった。

講演後の生徒の感想では、自分の誕生に誇りをもったこと、「自分ってすごい」という自尊感情が芽生えてきたこと、周囲の多くの人たちのおかげで自分がここまで成長してきたこと等の内容が多かった。

保護者についても、思春期のわが子に妊娠・出産の話をするのは気恥ずかしいし、何をどのように話したらよいのかを迷いがあったことに十分応えた講演で、好評であった。感想では、我が子の誕生のことを思い出すことで、子育ての原点にもどることができたこと、



親子の絆をあらためて考えるきっかけとなったこと等、感慨深いものが多かった。

(6) 緊急メール配信の活用

本校PTAでは、平成21年度から「緊急メール配信サービス」を実施している。配信内容は、自然災害による登下校の時間変更、不審者情報、インフルエンザ流行による学級閉鎖、学校行事やPTA活動の連絡等である。配信に関する費用はPTAが負担している。

年々登録者数が増加し、保護者数の80%を超えてきた。100%加入をめざし、努力していきたい。

(7) 募金活動

東日本大震災の被災地への支援として、4月に募金活動を実施した。一週間で約28万円の募金が集まり、700人分の文房具（ノート、シャープペンシル、消しゴム等）を購入して、気仙沼市教育委員会へ送付した。送付先を気仙沼市にしたのは、本校がユネスコスクール加盟校であり、この活動の先進的な取組をしている気仙沼市の小中学校を支援したいという思いである。

生徒会でも募金活動を継続し、赤十字社を通じて送付している。

(8) PTAによるふれあい活動

生徒たちのすこやかな成長には、親子のみならず、保護者相互の心のふれあいも大きな要素である。本校では、次のようなPTAによるさまざまな活動を実施している。

① PTAふれあい奉仕作業

夏季休業中に学校の環境整備や親子一緒に活動することを目的に実施している。今年度は8月21日に実施する予定で準備したが、当日は雨天のため、実施できなかった。

② 運動会 ～PTA種目とバザー～

9月11日（日）

運動会では、毎年PTA種目を実施している。今年度は「大玉リレー」を企画し、4色の生徒の色別に合わせて、保護者も出場し、盛り上がった。



一方で、PTAバザーも行い、今年度は天候に恵まれ、かき氷が大繁盛した。役員の協力体制ができており、準備や片付けも手際よくできた。

③ 文化祭 ～バザーと友愛セール～

10月31日（日）

PTA常任委員が中心となって企画し、文化祭の昼食としてバザーを毎年開催している。役員は材料の発注、前日および当日の準備がたいへんであるが、毎年多くの方が協力され人気を集めている。今年は雨天にもかかわらず盛況で、売り上げは好調であった。父親の方々も焼き鳥の販売に熱心で、日頃はなかなかできない交流ができている。PTAのOBの方もとても協力的で、毎年餅つきをしていただいている。

遊休品の販売（友愛セール）も毎年多くの品が提供される。値段も格安で、販売開始時刻には長い行列ができるなど、地域の方々が毎年楽しみにしておられる。



④ 校内駅伝大会 ～応援～ 11月9日(火)

全校生徒が24チームに分かれ、佐波川河川敷17区間を競い合う校内駅伝大会が開催された。今年は天候に恵まれ、佐波川土手には多くの保護者と地域の方が生徒への応援のために、かけつけた。



5 成果と課題

今年度の活動をふりかえっての成果は次のとおりである。

学校の安全教育について、保護者や地域との接点の機会をつくることができたことである。今年度は、地区懇談会において防府市防災危機管理課長牛丸様から適切な指導を受けることができた。避難方法や防災に対する意識が高まった。

生徒の避難訓練についてはこれまで学校任せであったが、初めてPTAと地域が関わることもできた。学校での取組は学校日より「わっしょい」やPTA広報誌「薫風」等で紹介されており、情報を得る場が整備されている。意識の向上のため、情報提供に努めたい。

今後の課題としては、地域との連携をよりいっそう強くする必要性があげられる。学校の防災教育を地域へ公開したり、合同防災訓練を計画・実施したりすることで、災害や防災に対する考え方を近づけ、実効性を高めていく。そして、自助・共助の心のもと、的確に判断・行動できる人材を育成し、災害に対応できる地域づくりをめざしていきたい。



おわりに、PTAの活動は学校と地域を結ぶパイプ役である。保護者は地域の一員であり、PTA活動は学校・地域・家庭を密接に結ぶための重要な役割がある。学校や家庭での取組を地域へ情報発信したり、地域の教育力を活用したりすることで、生徒の健全育成という目標に近づいていけるよう尽力していきたい。